



ぼくの通う小学校では、夏休みに絵かき教室が開かれる。そこで、夏休みの宿題のポスターの書き方を教えてくれるのだ。くばられたあん内の手紙を見ると、クラスメイトのゆうやが声をかけてきた。

「まさと、夏休みの絵かき教室、いっしょに行こうぜ。」

手紙を見ると、茅兵先生ぼっぺいという中国の方がポスターのかき方を教えてくださるそうだ。絵が苦手なぼくにとってはありがたい話だけど、ぼくは中国語を話せないし、外国の人と話したことすらないから、ちょっとふ安だった。

(どうしよう……。ポスターのかき方は教えてもらいたいけれど……。)

まよっているうちに、ゆうやから、

「じゃあ、いいな、まさと。明日、学校でね。」

と言われてしまったので、ぼくは、

「……うん。」

と、はつきりしない声で返事をしてしまった。

次の日、ぼくはしぶしぶ絵かき教室へ出かけたが、学校に行くまでの足どりは重かった。教室に

着くと、ぼくは部屋のすみのほうで絵の具を広げ、あい鳥週間の絵をかき始めた。空に向かっていると、く鳥をかこうとしているのだが、ちっともうまくかけない。バランスが悪い。そんな時、茅兵先生がやってきて、

「すごい。まるで今にもとんで行きそうな鳥だね。」

と、にこにこしながらほめてくれた。ぼくは思ってもいなかった先生の言葉におどろいた。どう見ても上手な絵に見えるわけがない。茅兵先生はつぶづけて言った。





「羽が大きくかかれていて、今にもとんで行きそうですよ。これはあなたにしかかけない絵ですね。」
そう言われると、この絵がちよっとすてきな絵に見えてきた。ぼくは、なんだか自しんがわいてきて、お中になって絵をかきつづけた。気がつくとき、ぼくは自分でもびっくりするくらい力強い鳥をかき上げることができた。ふと、教室の後ろを見ると、たくさんの鳥の絵がかざられているのが目についた。どの絵の鳥もみんな気持ちよさそうにとんでいる。ふしぎなことに、このたくさんの絵が、前にどこかで見たことがあるような気がした。はじめて見る絵のはずなのに。
(なんだか見おぼえがあるなあ。どうしてなんだろう。)
じっと考えていると、茅兵先生がとりにやって来た。

「見たことがあるでしょう。全部、幸手にいる鳥だよ。」

ぼくはおどろいた。どれも茅兵先生がかいた絵で、しかもみんな幸手の絵だったなんて。茅兵先生は他の絵も出して見せてくれた。幸手市を流れる中川や、けん央道、ごんげんどうの自ぜんの風けい、どれも見たことのあるけしきだった。

「わたしは、日本の大学で絵の勉強をしてから、ずっと日本でくらしています。今は、幸手の美しさをみんなに知ってもらいたくて、幸手の風けいをかいています。日本はずばらしいですよ。ほかの国にはないけしきがたくさんあります。」

ぼくは、茅兵先生が幸手の美しさを幸手に住むぼくたちよりもくわしく知っていて、大切に思っていることをふしぎに思った。

帰り道、ぼくはゆうやといっしょに、読書感想文の本をかりるために、市立図書館へ向かった。本をさがしていると、世界の国々がしようかいされてる本が目についた。その本にはいろいろな国の食べ物や生活などがしようかいされている。茅兵先生が日本や幸手のことをくわしく知っていたように、ぼくも外国のことを知ってみたいと思った。ぼくはその本を手に取り、お中になって読み始めた。

● 日本や外国のよさ、すばらしさにはどのようなものがあるか調べてみましょう。